

避難方法を考えよう

これまで家具の転倒防止、家屋の耐震化、非常持ち出し品や備蓄品の準備について学びました。これでようやく避難のスタートラインに立てた状況です。

今回は家から脱出して、避難所にスムーズに避難する方法を学びます。

● 定期的な家族での防災会議

災害時に避難路の確保、ガスや火元の確認、電気ブレーカーの確認などをする役割を決めておきましょう。避難場所、避難路や非常持ち出し袋はどこにあるかも確認しておくともスムーズに避難行動に移れます。

また災害時に家族そろっているとは限りません。家にいる・会社にいる・学校にいるなど、それぞれの場合に応じて役割を決めておきましょう。

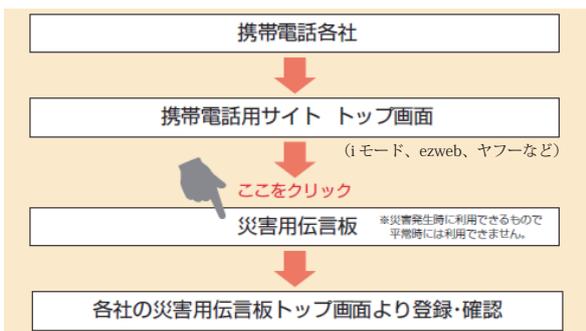
● 家族との連絡手段

家族が離ればなれで被災した場合、自分の身の安全が確保できたら、次は家族の安否確認です。家の電話や携帯電話は非常につながりにくい状態になります。

災害伝言ダイヤル171、災害用伝言板やメールを利用しましょう。

【災害用伝言板の使い方】

※スマートフォンは専用のアプリケーションが必要



私たちが、

地震が起きたらどうするの？

● 脱出は慌てずに

地震が起きたときは玄関が開かないことが想定されます。あらかじめ外への避難経路を複数考えておきましょう。また脱出経路上に転倒するおそれのあるものを置かないようにしてください。

避難の際は靴かスリッパを履いて行動しましょう。震災後、足をケガしていると、さらに生活が大変になります。

コミュニティ力=防災力

大きな災害が起こったときには、自治体や消防署だけでは救助活動が十分にできなくなることが予想されます。

そんなとき多くの命を救い、災害を最小限にとどめるのが、お互いを助け合うコミュニティの力です。

日ごろから地域の防災訓練に参加して、地域との交流を深め、いざというときに協力し助け合える地域づくりを目指しましょう。